

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1170800989
法人名	メディカル・ケア・プランニング株式会社
事業所名	グループホームつどい「小宮家」
所在地	〒343-0041 埼玉県越谷市千間台西4-3-14 (電話) 048-970-8331
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり1,300円		

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	駒クリニック吉川
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者であるメディアカルケアプランニングは、足立区を中心に介護ネットワークを展開している。グループホームつどい「小宮家」は法人の掲げる「人間の尊厳を大切にしながら地域の中で生活すること」を基本理念におき運営している。ホームは1階がデイサービス、2・3階がユニットのグループホームになっている。利用者がデイサービスを健康体操などの目的で利用することもあり、ホームとデイサービスとの良好な連携が取れている。また、定期的に、往診医や歯科医との医療連携が出来ており、利用者、家族の安心につながっている。ホームはまた、比較的自立度の高い利用者も多いため、「できる事は自分で行う」事を支援している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では理念の揭示、玄関前の家庭的な空間づくり、一人ひとりの意向を反映した介護計画、地域との連携についての取り組みが課題として挙げられていた。しかし、職員の異動や退職などにより、評価結果に関する十分な申し送りや取り組みができない状況にある。引継いだホーム長は、改善課題について前向きに取り組みたいと考えている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の意識の統一や、ケアの振り返りになる自己評価への参加、また評価結果の課題への取り組みについては今後の課題である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 昨年度は、1回のみの開催にとどまっている。会議の開催は、ホーム側からの働きかけがなくては進んでいかないのである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時に利用者の日々の様子をそれぞれ個別に話している。今年度から、月に一度、利用者の様子をお知らせするたよりを郵送する予定がある。相談ことはホーム長が窓口になっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にはすでに加入しているが、自治会活動への参加はまだない。昨年度は、地域との関係性を重視して、職場体験の中学生の受け入れ、民生委員の定期的訪問による連携、介護相談員の受け入れなどを積極的に行っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の尊厳を大切にしながら地域の中で生活する事」を法人の基本理念としている。「小宮家」としての独自の理念は特にない。		「地域のなかでその人らしく生活する事を支えるケア」の具体的なイメージをもち、職員全体で、「小宮家」独自の理念を作成することが望まれる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の異動や退職に伴い、理念を意識してケアにあたる事が難しく、職員全体に浸透するまでには至っていない。		まず、独自の理念を職員全体で意見を出し合い作りあげていくことを期待する。また、いつも理念に立ち返るよう、ホーム内に明示して、職員のみならず、利用者、家族への理念の確認に活かしていくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にはすでに加入しているが、自治会活動の参加はまだない。今年度は、職場体験の中学生の受け入れ、民生委員の定期的訪問による連携、介護相談員の受け入れなどを昨年と比べ積極的に進めており、地域との関係性を重視して地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の異動や退職などにより、評価結果に関する十分な申し送りができない状況であった。引継いだホーム長は、改善課題について前向きに取り組む意向である。		ホームの質の向上につなげていくための「自己評価」は職員全体で取り組むことで、最大に活用できる。ケアの振り返りになる自己評価への参加、評価結果の課題への取り組みを、職員全員が関わりを持ち、日々のケアへの気づきにつなげることが期待される。
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、1回のみで開催にとどまっている。会議の開催は、ホーム側からの働きかけなくしては進んでいかないのが現状である。		ホームから地域への提案や要望、ホーム機能の地域への還元など、運営推進会議をする事が利用者や地域住民にとってもたらずメリットについて自治会長、民生委員、市役所の職員、利用者家族などのメンバーに理解してもらえよう、継続的な働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向き挨拶をしている。また、市役所から依頼の介護相談員の受け入れをしており、市との連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時に利用者の様子を報告している。今後は1ヶ月に1回、利用者の様子を記入した便りを郵送していく予定である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や要望は、直接ホーム長が聞いている。また、緊急を要するようなことに関しては、申し送りノートに記入して職員間で共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職などに関しては口頭で利用者、家族に伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の計画する新人研修はある。ホーム独自のOJTやホーム内研修、外部の研修は計画的に行われているとは言いがたい。		職員の勤務体制など考えると、全員そろっての研修を行う事はなかなか難しい状況であるが、職員の見解を取り入れながらOJTや内外の研修計画をたて、計画的に実施していく仕組みを作り上げることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ入会しているが、ホーム長の勤務状況から会議への参加が出来にくい状況である。		同業者との交流をする事で、職場内では行き詰まっている日頃の仕事の悩みの解消や、緊急時の連携をスムーズにするなどのメリットもあり、また、勉強会や相互のホーム訪問などを通して、サービスの質の向上にもつながるため、参加できるような体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に体験入所などはないが、入所にあたり見学に来ていただき、ホーム内の様子や生活について説明し、よく理解してもらったうえでの入所としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を支援するだけでなく、利用者が職員の事をいたり、困った時にはさりげなく手伝ってくれる場面が見られ、ともに支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いは、家族から聴取したり、本人の言った事を記録や申し送りで職員間で共有している。カンファレンスは月に1回、緊急時は随時開催される。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を聞き、プランに盛り込んでいる。ホーム独自のISO方式の書式を使って日々のケアの評価をしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに定期的な見直しをしている。また、変化が生じたときには、そのつど見直しをするようにしている。見直しにあたっては、家族および必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人のデイサービスが1階に併設されており、デイサービスでの行事、健康体操などの参加をデイサービスの利用状況を確認しながら随時行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養の医師の往診が月に2回、認知症専門医が月に1回、歯科医の往診が週に1回、デイサービスの看護師の健康管理が週に1回ある。家族から希望するかかりつけ医についての要望は今のところない状況である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療体制的には、ホーム側の体制を整えば、ターミナルの受け入れは可能かと思われる。しかし、ホームとしてのターミナルへ向けた指針について職員全体の共有がまだ出来ていない。		ターミナルに取り組む上での体制づくりのために、職員全体で、「ホームとして何をを目指すのか」をよく話し合い、意識の統一を行い、その上でターミナルの取り組みについての方針を明文化し体制の整備を図っていく事が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りや尊厳を守り、プライバシーを損ねるような対応はしていない。また、個人の情報に関する書類はロッカーに入れて鍵をかけて保存している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はおおむね決まっている。それ以外は買い物、散歩、食事の準備、レクリエーションなど、その方の状態やペースに合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士によって立てられ、調理している。日曜日は、利用者の希望を聞き、買い物に行ける人に職員が同行し、買い出しをしている。下ごしらえ、調理、後片付けなど、利用者にしてできる事はお願いしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は幅広く取っており、希望すれば毎日入られるようになっている。また、一人でゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から本人の生活歴を聞き、日々のケアに反映させている。また、掃除や調理、後片付けなど利用者のできる事はお願いし、役割のある生活を送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーマーケットへの買い物、すぐそばの公園への散歩など、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避のため玄関は常時施錠している。2・3階にホームがあり、構造上、ベランダや庭などがなく、玄関へ行くのにはエレベーターの利用が必要である。		心理的閉塞感の解消策を考え、また、ホーム内で開放的な気分になれる方策を見出し取組まれることを期待したい。また、外出の機会を多くもてるような工夫などの検討が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は昨年度2回実施している。職員の異動などで参加していない職員もあり、緊急時の対応が浸透しているとは言い難い。		避難訓練は、地域住民とともに行う事で連携が取れる機会にもなるため、地域住民との合同の訓練の取組みが望まれる。また、定期的、突発的な訓練を定着し、いつ災害が起きても避難誘導できるよう取組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自のバイタルサイン、食事摂取などが把握できるよう記録されている。水分は朝昼夕の3食に加え、おやつの時やその他定期的に摂れる機会を作っている。また、水分は自由に摂れるように用意されている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングに利用者が各々集い、穏やかな時間を過ごしている。また、利用者と職員と一緒に季節感のある絵や工作を作成して壁に貼っている。各部屋の入り口には、それぞれ違った飾りつけをして、部屋の間違えがないように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋への、個人のたんすやテレビなどの持ち込みは自由にされている。写真や使い慣れた日用品などを持ち込むことで、その人らしい部屋になっている。		